

■ 平成 28 年度 第 1 回 新潟市立白根図書館協議会

日時：平成 28 年 7 月 26 日（火）午後 1 時 30 分～

会場：白根学習館 2 階ルーム 1

1 開会

2 会長あいさつ

（笹川会長）

今月の初め頃に日本経済新聞に 5 回くらいにわたって「読書の達人を訪ねる」というコラムがありました。日経の記者の方が毎回テーマを設けていろいろなものに挑戦して、その経過を発表するものなのですが、今回、読書ということで、大学教授、作家に、どのようにすればうまく、効率よく本が読めるかということ聞いた特集でした。結論としては、何でもいいのだと。自分が読みたいように、読みたい本を読むのが読書の醍醐味だと。基本的に読書は道楽だと。勉強するのも読書だし、楽しみのために読むのも読書。自分にあった本をあったように読めばそれが最高の読み方であるという結論になっていました。私たちも白根図書館を活用して素晴らしい読書体験をこれからもしていこうではありませんか。

3 議事

（1）平成 27 年度事業報告について（事務局より報告 資料 1-1 から 1-6）

（笹川会長）

では、皆さんからご意見、ご質問をいただきたいと思います。毎回、レファレンスの話が出るのですが、皆さん、レファレンスをされましたか。された方は手を挙げていただけますか。以外に少ないですね。ご感想をお願いします。

（近藤委員）

スムーズでしたよ。すぐに答えていただきました。

（本間委員）

スムーズでした。その分、自分の時間ができました。

（石塚委員）

一声かけることによって、自分の時間を費やすより、図書館の方に探していただいて、付箋などをつけるなど対応していただきました。

(笹川会長)

利用しないとそのよさが分かりませんので、ぜひとも利用なさってください。今、携帯電話で辞書機能など探索機能がついていまして、そちらを利用される方が増えていることもあるかもしれませんが、年々少しずつ減っているというのは時代的な環境のせいもあるのでしょうか。図書館側としてはそういうことを感じられていますか。

(事務局)

そうですね。おっしゃるとおり、パソコンなどの情報機器が発達していることから、ご自分で調べられている方が増えていることの影響もあるかもしれません。しかし、白根はレファレンスは年々減ってはいますけれども、所蔵確認については、昨年より増えております。窓口立つ職員は極力やさしい雰囲気できれややかに皆さんと接しやすいように努めております。今後、少しでも使い勝手がいいようにしていきたいと思っております。

(笹川会長)

野菜や、新しくお肉などを販売するときにレシピを据えておくと、いつの間にか売れるというお話がありますよね。質問がないといっても、普通、質問なんか浮かばないのです。例えば「こういう質問だったら職員が受け答えできますよ」というようなものを置いておけば、もう少しレファレンスしやすい気がします。今、NHKラジオで朝の8時ぐらいからの「夏休み子ども科学電話相談」という番組があります。本当にばかばかしいと思うような質問を、答える先生方は四苦八苦しながら汗をかきながら丁寧に分かりやすく説明されているのです。そういうことを考えると、レファレンスもやり方によってはまだ増える余地もあるのではないかと思います。学校図書館支援センターも学校からのレファレンスを受けられるのですね。

(事務局)

そうですね。学校からこういう本を送ってくださいというファックスが届きます。学校の司書たちは先生方から要望をお聞きし「こういう授業をするのでこういう本が必要です」という要望をします。それに対して支援センターは「何人分必要ですか、班学習ですか、個人学習ですか」と、いろいろなことを聞き取って、先生方が授業に使える形で本をお送りします。

(笹川会長)

学校からはそういった質問があっても不思議がないはずですよ。学校からのレファレンスではなくて、業務相談というのはどういう相談なのですか。

(事務局)

私たちは司書の方たちの支援もしていますので、仕事上で、この本はどのように分類した

らいいでしょうかとか、仕事上の相談などがその部類に入ります。

(笹川会長)

レファレンスとはまた違うものなのですね。

(事務局)

違います。本の中身ではなくて、仕事上の相談です。

(笹川会長)

私も素人はこういうものを見ても、具体的なものが見えてこないものですから。

(木川委員)

ラジオか何かで聞いたのか、別のところだったのか、これから小学生、中学生は自由研究がありますので、そのことについてお尋ねするとすごく助かるということも聞いていますけれども、今、実際にそういう例が出ていますか。こんな研究をしたいのだけれどもどんな本を探したらいいとか、簡単なようなことでも、親よりも図書館に相談したほうが適切なアドバイスを受けられるのではないかということを知りました。

(事務局)

学校図書館では学校司書の人たちが自由研究に役立つ資料を学校の図書館に並べて手助けをしていると思います。直接来る子どもたちはどんなでしょうか。

(事務局)

まだ始まったばかりですが、図書館としても子ども用に自由研究を集めたコーナーを作って、分かりやすいようにしています。

(笹川会長)

コーナーとしてはあるわけですね。

(事務局)

白根図書館の児童書の新刊を置いている棚の裏面をそのような形にして、自由研究の本をけっこう置いているので、それを見て、図書館職員に直接聞くわけではないのですが、選んで借りていく親子はいらっしゃいました。

(木川委員)

そんな話を聞いたときは、昔と違ってどんなに助かるだろうと思ったりしていました。

(高橋委員)

恥ずかしくて今まで言えなかったのですけれども、先ほど会長にも申し上げたのですけれども、レファレンスという言葉が最初全く分かりませんでした。資料をいただいても、レファレンスって何だろうと考えて、そういうことなのかということでおおいわかってはきたのですが、これが問い合わせ窓口とか、何とか相談窓口とかだとわかるのですが。

(笹川会長)

だれが見てもわかりやすいものだとよいと。

(高橋委員)

私は本を読むのは好きな方だと思うのですが、それでもレファレンスと言われて、何だろうと本当に分かりませんでした。一般市民を代表してお願いなのですが、私のようにわからない人はいっぱいいると思います。何とかならないものなのでしょうか。これほど図書館で一生懸命やっただいて、相談すればどんなことでも答えてくださるという感じなのに、あのレファレンスという言葉がじゃまをして、すごく損をしている気がするのです。どれくらい周知しているものなのでしょうか。

(笹川会長)

けっこう説明したものが掲示してありますよね。

(事務局)

協議会の都度、皆さんからお話をいただいて、もっとわかりやすくしようということで、カードといいますか案内を書架のあちこちに置いてはおりますけれども、あれでもまだわかりづらいでしょうか。

(薄田委員)

レファレンスという言葉自体が多分、普通の人に聞いても、図書館に通っている人でもわからないと思います。

(木川委員)

しかも長いんですよ、あの言葉が出てから。

(薄田委員)

私は3年前に初めて知りました。レファレンスは専門的なことをしているわけでもないし、専門的なことを調べるといっただけでもないのです。ただ好きな本を借りるために図書館に通っているのですけれども、そうするとレファレンスというのはほとんど必要ないし、ちょっとした言葉自体はインターネットで調べられるのです。

(笹川会長)

レファレンスというのは、例えば一つの本を読みますよね。こういうおもしろいジャンルがあったのかと。こういう本に近いような本を二、三冊そろえておいてくれませんかということもレファレンスになるでしょう。

(薄田委員)

そういうことでいいわけですね。この本がおもしろかったなと思って、その作者の本をイ

ンターネットで調べていますが。

(笹川会長)

それはできるけれども、似たようなジャンルの本を選んでくれないかというような。問い合わせの仕方ですね。

(薄田委員)

専門的なことを聞くという感じで、難しく考えてしまうような気がします。

(木川委員)

最初からわかりやすい日本語で書いてあればいい。

(星野委員)

今思い出したのですけれども、津波の話で、濱口梧陵の「稲むらの火」は小泉八雲の話が原型になっているとどこかに書いてあったのですが、その本の題名がまるでわからないのです。それで、別に参考文献をしましよと構えていったわけではなくて、私がわかっているのは濱口梧陵と小泉八雲で、小泉八雲のものが原型になっていると。その二つしかわからないのですと言ったのですが、そこから絵本を探してくれました。

(笹川会長)

津波が来ないような山の上で何かを燃やして、その火を見てみんな押しかけていって、そのおかげで助かったという話ですね。

(星野委員)

それは小泉八雲の話が原型になっているということはわかっていましたが、果たして何というタイトルの本かということはわからなかったのです。別に参考文献を受けましようということではなかったのですけれども、丁寧に探していただきました。

(笹川会長)

結局訳せないというのは、参考文献に含まれるものがニュアンスとして一つの日本語の意味だけではないような気がするのです。

(星野委員)

参考文献というのはもっと専門的なことかと思ったのです。

(高橋委員)

いろいろなことをという感じなのですね。

(星野委員)

私たちは本を録音しているのですけれども、わからないことがたくさん出てくるのです。何を調べていいかわからないときは、県立図書館に参考文献として相談してくださいと聞いていましたので、参考文献というのはすごく専門的なことかと思っていたのですが、

市立図書館でも行っているということを協議会に参加して初めて知りました。県立図書館でだけやっているのかと思ったのです。市立図書館でも調査してくれるということなのです。

(高橋委員)

言葉の意味がわからないために、とてももったいないと思うのです。レファレンスというのはすごく耳ざわりもいいし、でも訳がわからないのです。今皆さんがおっしゃるように、図書館側はウェルカムで、質問すればすごく丁寧に対応して下さるし、わかりやすく教えてください。それがレファレンスだというのがわかりさえすれば、どんなにいいかしらと思うのです。レファレンスというのはすごく素敵な言葉ですが、訳のわからない言葉はぜひ何とかして欲しい。そうすれば、レファレンスというのはそういう言葉だったのねと思う人はいっぱいいらっしゃるのではないかと思います。

(笹川会長)

ほかに報告事項に関して、聞いてみたいとか、あるいは意見などはありますか。

(木川委員)

棚から絵本を選ぶときですが、以前は題名順だったでしょうか。それが今は作者、それも絵を描いた人の名前で並んでいますよね。それがわからなかったときですが、申し訳ないのですが、司書の方にお聞きすると、すぐ見つけてくださるので、それもすごく助かっています。絵を描いた人や作者順だと見つけることが難しく、別の本にしなければだめだと思ってしまうこともありました。

(星野委員)

検索機で探せばいいのだけれども、わからないときは勇気を出して聞くのがよいですよ。

(薄田委員)

機械に頼るより聞いたほうがいいですね。

(本間委員)

パソコンでも場所が出るのですけれども、わかりづらい。結局、聞いたほうが早い。

(星野委員)

検索機もありますので、職員に聞くのに勇気がいるということはありません。

(本間委員)

うろうろするよりも、聞いたほうが早いのはわかるのですけれども。

(笹川会長)

ということは、やはり知らしめ方ですね。子どもたちでも怖がらずに職員に聞ける雰囲気はどう作るかですね。図書館というのはしーんとしているでしょう。大きな声で何か聞くと悪いのではというのがまずあるのです。以前テレビで他の市の図書館を見たとき、がや

がやして、そのかわり大勢利用者がいました。ああいう図書館もいいなと思いました。

(木川委員)

図書館で本を読んでいる人にとっては迷惑かもしれませんがね。

(笹川会長)

基本的に、その図書館ではあまり本は読んでいなかったようです。本を探したり、けっこう動き回ったり、ドタバタしていました。ただ、白根図書館は、書架とソファなどの椅子の位置が近く、目の前にあるという感じですからなかなかうるさくはできないと思いますが。

(木川委員)

白根図書館ができるときに、たしか勉強するための部屋というのは作らないことにしていたと思います。

(笹川会長)

図書館内ではなくて、ロビーや廊下などでも子どもたちが結構勉強していますね。

ところで私はよく音楽書のところを見るのですけれども、棚の脇で勉強している人がいると探しづらいときがあります。

(星野委員)

どちらがいいのでしょうか。少しざわめいているほうが尋ねやすいような感じがありますね。

(事務局)

読書に集中しておられる方からは靴の音でもご意見をいただいております、音がしないように床を張り替えてほしいと言われたこともあります。

(薄田委員)

私も、図書館に行くと、自分の靴の音がすごく気になって、図書館に行くときはコツコツ音のする靴を履いてはいけないと思ったことがあります。

(笹川会長)

美術館はどうですか。

(薄田委員)

美術館はそんなに感じないですね。美術館はあまり音がしないのではないですか。

(笹川会長)

しますよ。ルーブル美術館に行ってもどこに行っても。固いですから。しますよ。西洋美術館だって。

(薄田委員)

もっとも静かな美術館ではなくて、混雑している美術館しか行ったことないですから。

(笹川会長)

美術館は混雑してもだれも文句言わないですね。

(薄田委員)

言わないですよ。みんなきちんと順番を待っているし。

(高橋委員)

見るものが絵で、文字を拾って頭の中でやるのとはまた違うのかもしれませんがね。

(薄田委員)

絵を見ていて、下なんて気にならないのでしょうかね。

(薄田委員)

全然関係ないかもしれないのですがけれども、最近、図書館でもインターネットで本を予約して市内のほかの図書館から取り寄せし、届きましたという連絡を受けて取りに来ることが多くなりました。私は前にそういうことがないときは、あっちの図書館、こっちの図書館と行っていたのです。ところが、今はそういうことができるから、ここの図書館しか来なくなりました。以前は月瀉の図書館まで行って書棚を見たりということがあったのですが、便利ですがけれども、書棚を見る機会が前よりはなくなった感じがします。

(笹川会長)

ところで、図書館は月瀉も白根もほんぽーとなども一緒のシステムになっているのですが、味方地区図書室はあそこだけなので、むしろベストセラーを早く読みたい方は圧倒的に早いです。そのかわり、味方地区図書室の利用者で取り合いがあるかもしれないですが。

(薄田委員)

今度、味方図書館も蔵書が全部インターネットで見ることができるそうですね。

(事務局)

そのことについては後ほどお話しさせていただきます。利用拡大のために行いました。

(2) 平成 28 年度事業等について (事務局より報告 資料 2-1 から 2-3)

(笹川会長)

平成 28 年度事業について質問はございますか。

(近藤委員)

基本的なことをお聞きします。白根図書館の「おはなしかご例会」というのはどういうものなのでしょうか。

(事務局)

「おはなしかご」というのは白根図書館で読み聞かせなどのおはなし会を行っているボランティアグループの名前です。毎週土曜日の午後に白根図書館ではおはなし会がありますが、第2・第4土曜日は午前中に例会を行い、その中でボランティアの方々と職員がストーリーテリングや絵本の読み聞かせの実践を行い、お互いに意見を言いあう勉強会をしています。

(近藤委員)

友の会とは違うのですか。

(事務局)

違います。友の会は図書館事業全体を応援してくださっているのですけれども、「おはなしかご」はおはなし会を一緒に行っているグループです。

(笹川会長)

今年の白根図書館の文化講演会の内容は決まっていますか。

(事務局)

今、計画していて、もう少ししたら完全に決まると思います。

(笹川会長)

月潟の講演会は終わりましたよね。

(事務局)

先日終わりました。横越語り部サークルの笠原甚威さんという方を座談会講師としてお招きしました。

(笹川会長)

何名くらいでしたか。

(事務局)

一般市民の方 30 名のご参加がありました。

(笹川会長)

白根は時期もまだ未定なわけですね。

(事務局)

時期は 11 月の終わりのあたりで予定しております。もうしばらくしたらきちんと決まります。

(笹川会長)

それまでは協議会はないですね。ほんぽーとで他の図書館協議会との合同情報交換会がありますね。

(事務局)

そうですね。秋に予定されています。

(3) 図書館評価について

(事務局)

資料 3-1 をご覧ください。市立図書館では図書館法に記載されている図書館評価を率先して実施して、図書館でそれぞれの目標値、事業実施について自己評価を行い、さらに外部評価をいただき、委員の皆様からご意見を賜るということを行っています。評価のお願いにあたりまして、本日、白根図書館、月潟図書館の事業報告をさせていただきました。図書館評価シート記載の実施結果及び自己評価、それぞれ記載しておりますけれども、これらを参考にしていただいて、委員の皆様の視点、観点から評価していただきたいと考えております。評価はシート No.1 と No.2 の右側の欄の外部評価の 1、2、3 ということで書いてありますけれども、そのいずれかに丸をつけていただいて、できれば意見、提案などを記入願えればと思っております。シートの内容について若干説明させていただきます。シート No.1 をご覧いただきたいと思います。

図書館ビジョンの目指す四つの図書館像が左端に書いてあります。それぞれの評価項目があり、右の事業概要、実施結果、自己評価の欄ということでお話しさせていただきます。一番上が課題解決型図書館ということで、右隣が菱形の全館共通評価項目ということで全市の評価項目となりますが、レファレンスサービスの充実ということです。実施結果としては、白根、月潟図書館の欄ですけれども、平成 27 年度実績が書いてありますけれども、残念ながら目標を下回りました。自己評価としまして、利用者が自ら、気軽に端末で蔵書を調べることができるようになったということも減少要因かと思っております。所蔵調査の受付件数は増加しているということもありますので、少しずつ PR の効果が表れてきているのではないかと考えております。左側の端から二番目の黒い菱形のところは館の重点評価項目ということで、白根、月潟と考えていただければよろしいかと思います。展示架等積極的展開ということを中心としております。内容としては、図書館事業に関連した資料展示、利用者ニーズや時節にあった資料展示で情報提供を行っております。実施結果としては、白根が平成 27 年度は 46 回、月潟が 63 回ということになります。自己評価としては、白根ではビジネスコーナー、テーマ展示コーナーといった展示架の注目度は高いと考えております。今後も効果的な展示を行って利用拡大につなげたいということになります。月潟では定期展示のほかにミニ展示も定着してきたということで、身近な情報、話題性を心がけて行っているということです。

二つ目は分権型図書館です。全館共通として、地域資料の体系的な収集と活用ということで、それぞれの区を代表する人物や自然・風土・産業といったものの展示を行うということでもあります。平成 27 年度の実績といたしましては 7,373 冊ということで、目標を上回ることができましたということです。白根では幅広いレファレンスにも対応できるように行っています。月潟では活用価値、保存価値の高いものを優先して収集に努めたということでもあります。館の重点評価項目ですけれども、農業等産業関連図書の充実です。南区の主産業を中心として関連図書の拡大ということでとらえております。自己評価といたしましては、農業関係者を支援できるよう農業図書の収集を行っておりますけれども、今後、起業のヒントとなるような資料や伝統工芸といったものも意識していくことも考えていきたいと思っております。

三番目が学・社・民融合型図書館です。全館共通が子どもの読書環境整備ということで、ブックスタート事業の継続であります。3 歳児健診などでもそれぞれのご意向を伺いながら何かできることがないか検証を行っていききたいということでもあります。ブックスタート事業の実施結果といたしましては、ほとんどの方から参加いただいています。ブックスタートという言葉も浸透してきていますので、引き続き PR をしていくということでもあります。館の重点評価項目に対しましては、職場体験・ふれジョブ等の受け入れということでもあります。実施結果といたしましては、白根は合計 11 件の 42 名、月潟は合計 5 件の 63 名の体験を受け入れております。今後も引き続き、学校や民間団体と連携を図りながら、できるかぎり応えていきたいと考えております。

パートナーシップ型図書館については、全館がボランティアや教育機関、民間団体などとの協働であります。白根図書館の応援団である友の会を中心に読書会を毎月行い、講演会、図書館まつりなどを実施することができました。館の重点評価項目としては、ボランティア講座の実施であります。ボランティア育成のために前年と同様に養成講座を実施し 6 名の参加をいただきました。白根ではこれらの養成講座の参加者が若干増加しています。また、月潟では養成講座の参加が得られなかったということではありますけれども、再検討を行いながら、どういった養成講座がよいか、ステップアップのための講座の方がよいのかなどを検討していきたいと思っております。

シート No.2 をご覧ください。指標別評価シートです。上のほうは図書館運営ということで、資料購入費関係については対前年比微増となっているところであります。蔵書点数、個人の貸出点数についても微増、微減ということです。登録者数が減少、入館者数も減少ということですが、これは機械の更新ということもありまして、数字が大幅に変わってきたということでもあります。自己評価といたしましては、毎週、選書会議を行っておりますけれども、

厳しい予算の中で効果的な選書を心がけております。また、小中学生の利用が減少しているということでもありますけれども、今後、ブックスタートを含めた赤ちゃん、お子さんたちが続けて楽しめるような図書館づくりを行い、利用拡大を図るということでもあります。

施策・事業の欄ですけれども、四つの図書館像に関連した部分で申し上げます。ネットワークを生かした「課題解決型図書館」としては、レファレンス件数ということでも出ておりますけれども、所蔵確認も含めた中で見ていただくということで、目標よりも上回ることができたということでもあります。しかしながら、個人の予約件数については若干落ちたということでもあります。右側に自己評価が書いてありまして、そこに数字が3とか1と書いてありますけれども、欄外下のほうをご覧くださいと、3は目標値を上回って達成、2が目標どおり達成、1が目標値を下回ったということでもあります。

特色ある地域づくりに寄与する「分権型図書館」ですけれども、郷土資料・行政資料の蔵書の貸出については、蔵書は若干増えておりますけれども、貸出については前年目標よりは少し落ちております。前年実績よりは上がったのだけれども目標を下回ったということでもあります。

子どもの読書活動を推進する「学社民融合型図書館」については、児童書の貸出冊数が若干減少。学校への貸出冊数についても減少しております。子ども・親子対象事業の参加者数並びに職場体験受入人数は増加という結果になっております。職員の派遣人数については減少ということでもあります。学校図書館の充実が減少の一因となっているのではないかと考えております。それと学校独自でボランティア養成をしておられるため回数が減少しているということでもあります。児童は保護者と一緒でないとなかなか来館できない方が多いということで、親子で参加できる事業を実施したわけですけれども、このような結果でありまして、今後ともさらに増加につなげるような工夫を考えていかなければと思っているところであります。

市民参画と協働を推進する「パートナーシップ型図書館」ですが、図書館ボランティア活動者数は目標値を下回りました。前年実績とほぼ同じではありますけれども、目標を下回ったということで1の評価であります。ボランティア団体交流会参加者数ですけれども、目標は10人に対して4人と大幅に下回ったということでもあります。ボランティア交流会・ステップアップ講座といったものについて、今後、隔年実施するという方針であったため、平成27年度は行われなかったということで回数が減っているととらえております。

効率的・効果的な運営の研修参加職員数ということでもありますが、今年度目標に対して増加することができたという内容であります。

皆様から評価をいただき、市のホームページにも後ほど掲載をさせていただきますが、右

側の外部評価欄にコメントをいただき提出をお願いしたいと思っております。後日、記入し郵送していただければと思っておりますけれども、まとめる関係もありますので8月10日頃までに返信封筒に入れて投函していただければと思っております。

(笹川会長)

学生に戻ったみたいですね。目標があって、それを達成すればこれ、達成しなければこれと、なかなか大変ですね。図書館の仕事というのは、ここに書いてある以外で、例えば笑顔のいい人が窓口に着ているとか、レファレンスを聞いたときにすごく対応がいいとか、そういうものが何かあるような気がするのです。よく、スーパーで働くレジスターを打つ人のコンテストがあったり、電話対応のコンテストがあったりします。そのような人たちは普段自分たちの対応が売上げに一役買っているのだという相当な自信を持っています。図書館も数字に表れること以外に、例えば白根図書館のソファの柔らかさとか、いろいろな面の相乗効果で来館者が増える、レファレンスが増える、貸出が増えるという気もしているのです。ですから、皆さんもあまり数字だけを追っかけるということよりも、白根図書館へ来て気持ちよかったということを具体的にお書きしてもいいのではないかという気がしています。

(事務局)

ありがとうございます。毎年、職員それぞれが個人目標、組織目標、施設目標を立てて取り組むということがございますけれども、やはり評価の指標として達成したとかならないとか、目標として数値があったほうが、そこまで至らなかったとかどうかということが評価しやすいということで、なるべく数値目標を掲げています。

(4) 地区図書室の有効活用について

(事務局)

地区図書室の有効活用についてご説明いたします。資料4-1と資料4-2をご覧ください。味方地区図書室の有効活用にかかる検討については3月の協議会でもお話しいたしましたけれども、平成27年度、政策改革本部の重点施策として利用者起点に立った公共施設のあり方が検討され、地域における図書館機能のあり方と、どうすれば市民にご利用いただけるか。改善を図るそのうえで図書室機能の存続などを含めて検討するといったものになります。資料4-1の2の図書室拡大状況ですけれども、ここに記載のとおり、拡大されたということですが、味方地区図書室は②の一部拡大に該当いたします。資料4-2をご覧くださいと、味方地区図書室の開館時間を夜9時半まで延長したということで、土曜、日曜も同じ時間まで開いているということでもあります。

(笹川会長)

日曜も開いているのですね。

(事務局)

そうです。また行かれた方はご存じだと思いますけれども、夜間も、正面玄関を開けておりまして、正面に一般資料の書架が並んで、右の部屋のほうに雑誌や絵本が配置されています。

本の持ち出しまですべてセルフ方式ということでありまして、返却も部屋のかごに入れていただく流れとなっています。

3 の利用状況ですけれども、記載のとおり、味方地区図書室も拡大効果は少ししか出ていません。年末年始のみ閉館として、開室時間も長いので使い勝手はいいのですけれども、平均利用者数は今段階では1日5人で、去年の4人から少し増えたということでもあります。

4 の図書資料の有効活用については、味方地区図書室も保育園、小中学校、ひまわりクラブ、児童館といったところに利用案内を配布いたしました。白根図書館だよりの中に味方地区図書室だよりのページを設けて、毎月、関係機関に配布しています。

5 の今後の取り組みについては、区だより掲載は継続しますし、蔵書一覧は市のホームページに掲載していますので南区の施設のページから味方地区図書室を選んで開いていただくとご覧になれます。分類別、書名も五十音順に掲載しています。ただこれは今年の4月1日現在のものです。年に1回は更新したいと思いますが、タイムリーとまでいきませんので、その辺のところもご了解いただければと思っております。

以上の内容なのですけれども、利用状況によって今後の方向がさらに検討されると考えておりますので、よろしく願いいたします。

(笹川会長)

味方地区図書室はともかく行ってみるのが一番ということですね。

(薄田委員)

私も味方地区図書室へよく行きますが、他の人がいると入りにくいときもあります。

(事務局)

平日の5時半過ぎや土・日は担当の事務職員がいないことが多いからでしょうか。

(薄田委員)

それはそんなに気にならないのです。図書室の貸出のためのカードを書くところが狭いのです。そこに誰もいないとうれしくなって、ゆっくり書けるという感じです。

9時半まで開いていますが、入る人はいるのでしょうか。

(笹川会長)

警備員が鍵を閉めるまで開いているということなのですね。

(事務局)

そうです。当直員が勤務しております。ただ、図書室にいるわけではありませんので、多少のリスクはありますけれども、その辺のところは皆さんがマナーを守ってくださっているのかなと思っております。

(笹川会長)

これで最後になりますが、何か言い足りないことがあったら言ってください。

(石塚委員)

何十年も昔なのですけれども、燕の水道塔のほうに図書室があったのです。そこが9時半まで開いていて、私も仕事が終わるとそこへ行って、9時半頃まで過ごすのがすごく楽しかったなと思ったのです。その図書館は遅い時間でも職員がいましたけれども、そんなことをしたら職員の方も大変ですよ。利用者側としては、勤めていて、5時に終わって9時半まで図書館にいらることができて本当に別天地だったなと思います。今、味方地区図書室が9時半まで開いているとお聞きしたのですけれども、結局はそこで過ごす感じではなくて、本の貸出だけですね。

(高橋委員)

狭いのですけれども、いつもほとんどだれもいないのです。

(薄田委員)

ゆっくり本を読んでいけることが大事じゃないですか。

(高橋委員)

でも、椅子は何脚が置いてあります。みんなわりと居心地がいいと言います。

(薄田委員)

あそこに行って、だれもいないとうれしいと思います。ゆっくりできます。

(石塚委員)

いろいろな意味で、図書館も居場所、自分の居心地のいい空間ですから、せいぜい活用していきたいと思います。

(事務局)

正面玄関を入ってすぐ右側に四、五人くらい座れる椅子とテーブルがあるし、2階でも読めます。

(木川委員)

2階にも書架もあるのですか。

(事務局)

書架はないです。

(薄田委員)

書架はまた別で、入って真っ直ぐのところに書架があるのです。

(高橋委員)

書架というのは本棚のことですよ。

(薄田委員)

本棚のことです。

(高橋委員)

他にもありますよ。

(薄田委員)

入ると真っすぐのところにあるだけだと思うのですが。

(高橋委員)

出張所の正面玄関真っすぐのところに行くか書架が並んでいます。そこは別に、その右奥の、手洗いに行くほうでしょうか、そこに小さいお部屋があります。入口から真っすぐのところの本棚には前からあった本が並んでいる。その右側の細い、お手洗いにつながるところを行きますと小さいお部屋があって、そこには新しい本があります。雑誌などもあります。

(薄田委員)

でも、あそこはいいですよ。何となくいいですよ。ほっとしますよね。

(笹川会長)

365日開館していますからね。

(事務局)

360日くらいです。

(笹川会長)

5日間しか休まないわけでしょう。すごいですよ。

(事務局)

ところでレファレンスについてですが、昨年の協議会でずっと言われていましたので、レファレンスという言葉を使わないでわかりやすい日本語にした案内を図書館内に何か所か置いてあります。

(本間委員)

サイズが小さくはないですか。

(事務局)

もう少し大きくすればいいのでしょうか。

(本間委員)

できるかぎり大きく。

(石塚委員)

せっかくだから、ここにレファレンスと書いていいかもしれませんね。

(事務局)

横文字を入れないようにしたのですが。

(木川委員)

いいものを作っていてくださったんですね。

(事務局)

いろいろな注意書きや案内といったものがたくさん置いてあるので気がつきにくいのかも
しれませんけれども。

(薄田委員)

もっと色をぱっと目立つようにしたらどうでしょうか。

(木川委員)

そうですね。もう少し派手に、目を引くような感じがよいかと思います。

(笹川会長)

イラストがあってもいいかもしれませんね。

(近藤委員)

私の個人的な感想なのですが、いつも図書館だよりの中で今月の読書会の記事を楽しみにしているのです。読んでいて非常に感銘を受けて、これはぜひ行きたかったということがよくあるのです。

(笹川会長)

ぜひおいでください。なかなか新しい方が増えないのです。

(近藤委員)

特に最近の戦争についての本、平和の本、非常にタイムリーでした。

(笹川会長)

ありがとうございます。テーマは出席した人が全員で決めるのです。何でもよいということになると收拾つかなくなりそうで、毎回、テーマを決めて、そのテーマに沿った本を持ってきてもらってお話しするのです。ぜひおいでください。

(笹川会長)

新聞を気をつけて読んでみると、読書、図書館に関する記事が随分増えました。全国でど

この図書館が評価されているとか、そういうのはけっこう見ます。私たち協議会委員もそういう意味では、この地域の人のためになりますので、ぜひともいいご意見をお聞かせ願えれば幸いです。

少し延びましたけれども、今日はどうもありがとうございました。